

ONE LOVE 通信 54号

2015年4月26日発行

5月から7月まで、ガテラと一緒に帰国します。花見には間に合いませんでしたが、最近寒い季節に戻る事が多かったので、今年は気持ちの良い季節を感じることができそうです。

父が亡くなる前、多分父と見る桜はこれで最後となるであろう花見に行きました。少し肌寒い中見た桜は、おぼろげで頼りなく、切ない色をしていました。だから桜と言うと父を思い出します。もう一度、一緒に見たかったな～。

今回の帰国でも、各地で活動のお話をさせていただきますので、ご都合のよろしい皆さまは、ぜひ聞きに来てください。



【ようこそ！ルワンダへ！】

2015年が明けて間もなく、小学校の先生3人が、4人の生徒を連れてルワンダにやってきました。小学生のワンラブ訪問は初めての事です。

危険だとか、責任を誰が取るのだ？などと言う理由から、学校内の行事も制限され、安全な方へと向かって行っている日本の教育。それはそれでわからないでもないけれど、やはりかわいい子には旅をさせろということわざがある通り、親元を離れて初めて体験することも多いのでは？

長野市立のS小学校の先生たち、そして保護者たちは子供を自立させる旅にルワンダを選んでくれました。

この小学校とは2004年からのお付き合い。滋賀県の新旭町（現高島市）で「地雷をなくそう！世界こどもサミット」というイベントが行われたときに、ルワンダの子供二人を連れて参加、その時に会いました。

さて到着の日。焦って作ったウエルカムボードを手に着ロビーへ。おっ！来た、来た！長旅お疲れさま～！

いつも感じることだけど、日本で会った人にルワンダで会うと、なぜかちょっと照れてしまうのです。しかしそんな私の照れを知らない皆さん、長時間飛行機に乗ったにもかかわらず、いや、元気、元気。

とりえず初日は、疲れを取ってもらうためにそのままワンラブランドへ。それにしても彼ら、日本の食べ物とかお菓子とかスツケース一杯に入っている！しかも私へのお土産も大量に！ありがたや、ありがたや。

夜のご飯はワンラブのレストランで。初めてのルワンダの食べ物、特に彼らにとって目新しかったのはウガリ（キャッサバ芋やトウモロコシの粉を熱湯に入れて練ったもの）。こちらの皆さんは手を使って食べるので、それも真似してみる。

滞在中、面白い出来事がたくさんあり、全部書ききれないけど、その中でも印象に残ったことを徒然なるままに…。

キガリ市内の観光。しかし何をするにもお金が必要。まずは米ドルをルワンダのお金に換えるために両替屋さんへ。ルワンダにはこうした両替商があちこちにありま



間私は別件でその両替商で送金手続きをしていたけれど、子供たちと言うのは放っておけば、結構自分たちで何でもできるんですな。みんなそれぞれ滞在中に使うお小遣いを計算し、自分で両替に挑戦。

スーパーマーケット。その国を理解するために、スーパーマーケットを歩いてみるというのは、非常に良い手段。どんな品物があるか、いくらくらいするのか？そんなことがわかると、自然とそこで暮らす人たちの様子が見えてくる。



ルワンダへようこそ！
ワンラブを見下ろす丘で
集合写真。
教頭先生、R君、K君、
Mちゃん、保健のN先生、
Yちゃん、そしてK先生。

子供たちが興味を示して動き回るのは良くわかる。彼らは好奇心の塊ですからね。しかし、むしろ夢中になっているのは先生のような。ちなみに今回のメンバーは男の先生2人（うち1人は教頭先生）、女の保健の先生1人、男子生徒2人、女子生徒2人である。

市場。ここは野菜・果物・肉・魚・洋服・日用品、とにかく何でもそろっている。それらが広い市場に所狭しと並べられている。ここで商売をしているおじさん、お婆さんはとにかく客引きがすごい。そこに入っていき日本人御一行様。飛んで火にいる夏の虫とはこのことである。

しかし御一行様が魂消たのは、多分市場の混沌さとそのにおい。ごちゃごちゃしているのは市場の常であるが、食材やゴミ、はたまた生きたニワトリやら、全てがごちゃ混ぜである。思わず鼻をふさぐ子供たち…。多分生きたニワトリが足を縛られ売られているさまは、生まれて初めて見たのであろう。この命をもらって、私たちは生きていますよ。

お土産物ショッピング。定価がついていないお土産物屋もたくさんある。そこに飛び込んで値段交渉をしている子供たち。あちらの店、こちらの店を行ったり来たりして、少しでも安くしてもらおうと必死である。しかしこの時も子供たちよりも、先生たちの方が必死に値段交渉をしていたようである。教頭先生に至っては、最終日ついにお小遣いが底をつき、でもまだほしいものがあるようで、必死に値段交渉をして、ほしいものを手にした子供たちを横目に「いいな～」を連発。全く教頭先生と言う威厳がなくなっているのである。しかし私も子供の時に、こんな人間臭い教頭先生に出会いたかったぞ。

アカゲラ国立公園へ野生の動物見学。時間に余裕があれば、一泊するのだが、時間のゆとりがない。しかも動物を見に行くことを、ルワンダに着いてから急遽決定したため、準備が整わず、動物はあまり見られなかった。ず～っと遠くの方に、一頭だけ水浴びをしている象を発見。K先生はアウトドア大好きのように、こんな時のために望遠鏡を持ってきていたので、それが非常に役立った。多分この望遠

鏡がなかったら、いくらガイドが「あそこに象がいる」と言っても、見えなかったであろう。そう、こっちのガイドはめっちゃくちゃ視力が良いのです。

さて、今までののはあくまでも身近な、旅行者でも触れることのできるルワンダ。ここから先がメインイベント。

長野の学校とスカイプ中継。お年を召した方には「テレビ電話」と表現した方がわかりやすいであろう。つまり彼らの学校とルワンダをつないで、生の声を聞いてもらおうという作戦。時差があるので、学校の時間に合わせるために、こっちは早起きしてスタンバイ。みんなそれぞれ、報告する内容の原稿を作り、練習に余念がない。本番ではみんなとガテラ、私がパソコンの前に整列し、挨拶など。地球の反対側の出来事が、こんなふうのすぐに相手に伝わって、考えられなかったよね。わずか10分くらいの中継だったけど、終わってからは大騒ぎ。興奮冷めやらぬ先生と子供たちであった。

義肢製作体験。私たちの本業である義肢製作ももちろん見てもらった。義足を履くところ、調整をするところ、そして歩く練習をするところなどを見てもらう。今日の患者さんは子供の時に地雷を踏んで足を失った男性。初めての義足なので、うまく歩けない。転ぶのが怖くて、下ばかり見て歩く。その歩き方に喝を入れる義肢装具士。「おい、ちゃんと前を見て歩けよ」「なんだその歩き方。へっぴり腰だなあ」しかし人間とは学ぶ生き物なのだ。少しずつではあるが、歩けるようになってきた。その様子を見て、子供たちや先生は何を感じたかな？今までは写真でしか見たことなかったけど、少しは具体的にわかってもらえたかな？それからアシエールやガテテと一緒に、義足の型を作るのにも挑戦。石膏の粉に水を混ぜて、それを流し込む作業。あの時手伝ってくれた義足、あれからきちんと作って、患者さんに渡したからね～。



ルワンダの子供たちとおしゃべり中。
一体何をしゃべっているのかな？

それからキガリから車で3時間ほどのところにある小学校も訪ねてみた。やはり同年代の子供たちがどんなふうの学校生活を送っているか気になるはず。日本から手作りのおもちゃを持ってきて、一緒に遊んでいた。日本人とルワンダ人、あまりコミュニケーションが取れないにもかかわらず、なんだか彼らと通じ合っちゃうのですね。言葉は意志を伝え合う手段に過ぎないと感じた場面でした。学校ではお昼の用意もしてくれ、ここでみんなは炭火で豪快に焼いたヤギの肉を食した。ヤギ肉は臭いと言われるけど、こんなふうの料理するとおいしくないでしょ？

そして一時もじっとしていられない子供たちは、サッカーをして遊んだ。日本の校庭のように、きれいに整備されているわけでもなく、石ころだらけのいい加減な校庭でボ

ールを追っかけるみんな。

滞在の最終日は「ジャパン・デー」と称して、ルワンダの人に日本を紹介するイベント。この日はワンラブのスタッフやら、その辺にいる人やらを呼んで、カレーライスを振る舞うのである。ワンラブのレストランのコックさんと一緒に市場に買い出しに行く。もちろん値段の交渉も忘れずに。わずか数日のうちにたくましくなったものよ。大量のジャガイモの皮をむいたり、涙を流しながら玉ねぎを刻んだり、大きなお鍋で焦げないようにかき回したり。わざわざ日本からカレールーも持ってきて、本格的な(?)日本のカレー作りである。

初めは人が集まるか不安だったけど、なんのなんの。いつの間にかたくさん集まり、さあ、始まり始まり～。

歌を歌い、あやとりをルワンダの人に教えたり、コマを回したり。発表する子供たちは恥ずかしがったり、あがったりすることなく堂々としていた。度胸が据わっているのである。

真打ちは空手の披露。ルワンダ人はこういう派手なパフォーマンスが大好き。真剣な眼差しで型を披露するK君を見つめている。道着を着て、一つ一つ型を決めていくその様子は、めちゃくちゃかっこいいぞ。

そして最後に板割り！足で1.5センチある板を割ろうというものである。精神統一をして、呼吸を整える。その緊張感が、見ているこちらにもビシビシ伝わってくる。

えいやっ！あ～、残念！！振り上げた足の高さと板の高さが合わず失敗！

もう一度目を閉じ、精神統一をするK君。こんなにたくさんの方が期待して見守っている。その期待に応えようと

する彼の心情は如何に？

は～っ、それっ！

やった～！見事成功！拍手喝采の観客！自然とわき出てくる声援と拍手。本人も感極まり、思わず来てくれた観客一人一人に握手をして回った。その男らしい姿は、見ている人たちを感動させ、先生も私も涙が出てきてしまったのである。プレッシャーに打ち勝つというのは、こういうことなのである。すごいぞ～！



ジャパン・デーでリコーダーを披露する4人。物おじしないその姿は、とても立派だった。

自分たちの出し物がすべて終わった子供たちは、その後ルワンダの伝統的なダンスを見て、招かれるがままに一緒に踊ったりしていたよ。ここでも日本の生徒にありがちな、変に恥ずかしがるということもなく、ルワンダのお兄さん、お姉さんと踊っていた彼らは、なんだか久しぶりに子供らしい子供に会えたよう気がして、私の心が温かくなった。

最後にはみんなで作ったカレーも振る舞われ、お客さんからとても好評だった。みんなカレーのおかげでいたし…。しかし日本から持ってきたスルメは賛否両論であったが…。

こんなふうにして彼らの滞在は、幕を閉じたのであります。本当に充実した時間だったなあ。こんなに楽しかった



ルワンダ事務所代表ガテラより

【未来へ続け！】

日本から小学生が来た。

俺たちが日本に滞在している間は、たくさん学校の話をさせてもらっている。それは自分たちにとって、とても良い経験になっている。

特に小学校を訪問するときは、わかりやすく話をしなくてはいけないので、自分の中でも内容をうまくまとめようとする力がつく。

今回来てくれた小学校とは、とても長い付き合いになる。学校はとてもきれいで、いつも大歓迎してくれる。一度雪が降ったときに訪れた時は、雪だるまを作って待っていてくれた。雪に馴染みのない俺としては、その時もっと時間のゆとりがあれば、みんなと一緒に雪合戦と言うものをしてみたかった。

いろいろな学校を訪れるたびに、俺はこう話しかける。「ぜひ一度ルワンダに来てください」と。しかし日本人の臆病な面も知っている俺は、なかなかそれが実現するのは難しいだろうなとも思っていた。

しかし、今回彼らは来てくれたのである。

そして滞在中、彼らがどんどん変わっていく姿を見て、父親のような気持ちになった。最初は話し声も小さかったし、話すことを怖がっているように見えた彼らだったが、いろいろな人に会い、自分たちの知らなかったことを体験することによって、どんどん強くなっていったのである。わずか数日でこんなに人が変わるさまを見られたことに感謝したい。

これから先、俺たちはもっと年を取り、体力も落ちてくる。しかし彼らは今が発展途上なのである。

世界のあちこちで戦争が起こり、いつも犠牲になるのは弱い人たちだ。子供の命も、大人のエゴによって失われている。

どうか日本の子供たちよ、強く、逞しく育ててほしい。その強さとは暴力のことではない。絶対的な心の強さのことだ。

この世には自分と違う人間しかいない。相手の存在を認め、そして相手を受け入れることのできる心の強さを持ってほしい。これ以上強い力は、この世に存在などしない。

今回来てくれた子供たちを見て、こんな子供たちがたくさんいたら、世界はもっともっと素晴らしくなるのになと思った。

そして今度はいつになるかわからないが、またそんな子供たちがワンラブを訪れることを待っているよ。

のは久しぶりだ。

最初に書いたように、危ないからダメとか、責任を取りたくないから最初からやらなかったりする傾向が強い。そんな情勢の中、子供たちを連れてくる勇気を振り絞ってくれた学校の先生たち、そして私たちに子供を預けてくれた親御さんたち。本当にありがとうございました。

彼らが大人になっていく過程でルワンダに来てくれたというのは、とてもうれしいことです。果たしてこの先ルワンダでの体験が、どんなふうに関係していくのか。非常に興味深いところです。

彼らはこの3月に小学校を卒業し、中学生になった。中学に行ってもがんばって。ルワンダにいた時のように、堂々と生きていってください。ガテラも私も、夢のようなこの時間をこれから先も忘れません。

【パソコン教室オープン！】

年末から2月にかけて、ワンラブランドにある建物の修理工事に追われていました。

さてここで何をするつもりかと言うと…？

障害者にパソコンを教える教室をスタートしました。このプロジェクトは、東北福祉大学が主体となり、JICAの資金援助を受け、ワンラブが現地のパートナーとなって進められるものです。

修理工事のための資金がなかなか JICA から降りず、工事開始時期が年末になってしまったため（予定より3か月も遅れた！）、クリスマスも正月も返上で突貫工事をやるガテラ。朝は7時前から夜は8時過ぎまで…。疲労困憊なのだ。工事期間中、私は日本からこのプロジェクトのために派遣されたH嬢と共に、先生となるルワンダ人の面接、生徒募集などをする。今回は5人ずつ、2クラス。ほとんどパソコンを知らない人のための教室である。

そして何とか2月中旬に工事を終了し、半ば無理矢理に教室オープン。このプロジェクトの売りは、授業料タダ！送迎バスつき！である。

ルワンダの障害者は皆それぞれ自立をしたいという気持ちはある。しかし自立をするための手段、つまり仕事に生かせる能力や技術を持っていないため、結局人の世話にならざるを得ないというパターンも多い。

そして技術を身につけるために勉強しようと思っても、お金がないから学校に通えないという悪循環にすっぽりはまってしまうのである。だからそんな人たちに門を広げようという意味で、授業料はタダ。

しかも送迎バスつきである。これは彼らが交通費を持ち合わせていないということも理由としてはあげられるが、もう一つは彼らのモチベーションを上げましょう、さらに途中で逃げ出さないように、こっちから出向きましょうと言うこともあげられる。

ルワンダ人は飽きっぽい。最初は面白がって教室にも通ってくるが、そのうち飽きて来なくなるという可能性がある。なので、せっかくプロジェクトを始めたこちらとしては、そんなふうには飽きられたら困ってしまう。だから送迎バス

をつけて、彼らを迎えに行き、連れてきちゃおうという魂胆である。

3月上旬には、東北福祉大からプロジェクトマネージャーである先生も来て、開所式を行った。

開所式にはルワンダ政府の人たちや、在ルワンダ日本大使館の大使も呼んで、予定より来てくれた人数は少なかったものの、とりあえず無事に終了した。



開所式の日、みんなバラバラの集合写真。生徒たちと一緒に。さてこの中の何人が最後までついてくるか…。

そして現在。生徒として集まった10人は欠席することもなく、毎日授業を受けている。彼らは2か月の初級コースを経て、中級コースに入ろうとしている。さらに上級コースがあり、その後には学んだ技術を仕事に結び付けるフォローアップも行われる。

ここで勉強した障害者のうち、何人が実際に自立をすることができるのか？とりあえずプロジェクトの期間は約2年半。先に書いたように資金は JICA が出してくれるので、義足を作っている活動のように、資金繰りで頭を悩ませ、夜も眠れないという状態は避けられそうです。

パソコンを勉強して、彼らがどんな仕事を生み出せるか、ワンラブ通信を読んでくれている皆さんも、ぜひ一緒に考えてください。そう、今回のプロジェクトの目的は、人に雇われるのではなく、自分で仕事を作ることにあるのです。さて、何か良いアイデアはありますか？



紹介します！ワンラブのスタッフ

ワンラブの直接のスタッフと言うわけではないけれど、長い付き合いのあった友人が亡くなりました。

名前はボスコ。ケニアのナイロビでツアーガイドの仕事をしていました。

彼はガテラの古い友人です。ガテラがルワンダの紛争を逃れ、ケニアで生活をしていた時に知り合いました。そしてガテラを通して、私もボスコを知りました。

ちょっと太めで、目がくりくりしていて、いつも自分が道化をすることによって、人を笑わせるような性格でした。

私たちは義足の材料買い出しのためなどに、時々ナイロビを訪れます。その時ボスコは自分の仕事の合間を縫って、空港に迎えに来てくれたり、自分の車を出して、私たちをいろいろなところに連れて行ってくれました。

ある日、彼の奥さんから電話がかかってきました。「ボスコが突然倒れ、今意識不明の状態なの。」

元気な姿しか知らない私は、そのことがまるっきり信じられなくて、まあそのうちに良くなるだろうと高をくっ

ていました。

そして数日後、彼が亡くなったという知らせを受けました。それを聞いても、ピンと来ませんでした。

ナイロビで亡くなったので、遺体はルワンダまで空輸するしかなく、家族や友だちが集まって、遺体の輸送やお葬式のための資金集めが行われました。

お葬式の当日、相変わらずピンと来ないまま、彼の遺体が置かれている家に着くと、そこにはたくさんの親戚や友人が集まっていた。

ルワンダでは最近、亡くなった人の写真をプリントしたTシャツを作り、お葬式の時それを着る人たちが増えています。そのお葬式でもボスコの笑顔の写真がプリントされたTシャツを着た人がいました。

それを見た瞬間、自分の頭の奥がツーンとして、一気に感情が押し寄せてきました。

そして部屋に置かれた棺桶に眠っているボスコを見て、涙があふれ出てきました。その時やっと彼が亡くなったということを理解したのです。

ルワンダにいと、人がたやすく死にます。病気であったり、事故であったり。生まれたばかりの赤ちゃんも、あつという間に死んじゃいます。それは医療の少なさが原因なのかもしれません。



ありし日のボスコ(中央)。暇があると、ガテラとボスコは、ナイロビのスタンレーと言うホテルでおしゃべりしていた。

だからルワンダに来てから、人の死に慣れてしまったように思っていました。でもいざ自分の身近な人が亡くなってしまうと、やはりそれはそれは辛いものですね。

彼の死を理解したとは言うものの、でもまたナイロビに行ったら、彼が自分のポンコツ車を運転して、どこかに連れて行ってくれるんじゃないかなんて思ったりしてしまいます。

ガテラを通して、たくさんの友だちに会いました。みんなそれぞれ「いい奴」だけど、私にとってはボスコが一番心の中を話しやすい人でした。そんな彼が亡くなって、なんだか私の心にピーピー風が吹いています。

さようなら、ボスコ。またいつか。

【人間は学ばない…?】

最近、インターネットであれこれ見ていると、どうにも不快になる内容が多すぎる。

その一つにヘイトスピーチ(差別的表現)がある。一つの民族、社会的少数派などを対象に、罵詈雑言を浴びせる。

例えば韓国に対してのそれは、言っている人の神経がおかしいとしか思えないような内容だ。

果たしてそれを言う人は、相手をきちんと知ったうえで言っているのだろうか?多くは情報に踊らされ、相手と付

き合いもしないでその気になって、発言がどんどんエスカレートしているのではと想像する。

それじゃあ、いかなのではないか?

人間だれしも好き嫌いがある。気の合う人間がいるように、こいつだけはどうしても受け入れられないという人間もいる。それは人間だけでなく、猫の世界でも一緒だ。うちには大量の猫がいて、仲良しはいつもくっついていて、いつもシャーシャー言っている奴らもいる。きっとあいつの方が俺よりメス猫からモテるとか、俺の飯を横取りしやがってとか、そんな理由であろう。

その場合は許す。具体的な理由があるから。

でも昨今のヘイトスピーチは、実際に自分が感じた明確な理由があるわけではなく、単に世間がこう言っているから、俺も同調しようという、まるっきりアホな行為にしか思えません。

まだヘイトスピーチなどと言う言葉が使われていなかった頃、ルワンダではそれが理由で民族対立が起こり、あつという間に大虐殺が起こってしまった。

実際に自分が相手に何かをされて、その恨みで殺したというよりは、周りがそう言っているから、きっとあいつらは悪者なのであろうと思ひ込んでしまったのだ。

そしてその大虐殺のニュースを世の中の人々は新聞で、映像で、画像で見ているはずなのに、そこから何も学んでいない。

一時は「差別はいけません。戦争もいけません。仲良くしましょう。人類は平等です。」と言うくせに、そんなきれいごととはさっさと忘れ、いつの間にかののしるべき次のターゲットとなる人を探し始める。

私もルワンダに来た当初は、人間は平等と思っていた。でも現実はそうではなかった。だから今は人間は皆同じと言う考えを捨て、人間は皆違うという考えに至った。そうすると相手が自分と違うということが当たり前になり、それなりに相手を受け入れられるようになるのであります。

その代り個人的にこんちくしょうと思わせることをされたら、その人のことは嫌いになっちゃう。そうすると対象はあくまでも「個人」であり、戦うといっても個人レベルに留まるのであります。(…だからと言って個人レベルの戦いが許されるわけではないと思うけど。)

ネットで見かけるヘイトスピーチは、そんな個人的な恨みつらみから発生してくるのではなく、人の出す情報に踊らされている哀れな行動に見え、それが自分をどんなに貶めているか気づかない、悲しい行為に感じます。

十把一絡げで一つの国や国民、対象を見ってしまうのではなく、もうちょい、冷静で賢い見方をしようよ。

人間ってとても単純だと思うから、焚火でも囲んで、おいしいものでも食べて、いろんな国の人と語り合えば、相手に対する偏見なんて、簡単に飛んで行っちゃうような気がするんだけど?

それとも世の中って、そんな簡単なものでもないのかしら?



日本事務所より

去年の11月から今年の1月にかけて、日本からいろいろな人がやってきました。年を重ねるにつけ、どんどん日本食が恋しくなり、ルワンダの食材だけでは満足できなくなってきている自分があります。(若いころはルワンダの食材だけで、食事を楽しむことができたのに…)

そんな時にありがたいのは、日本からの訪問者。ここぞとばかりに日本食を持ってきてもらうようお願いをします。

真っ先にほしくなるのは、カレールー。今回の記事にも書いていますが、小学生が訪れた時、ルワンダの人たちに振る舞うためにカレーを作りました。彼らもたくさんカレールーを持ってきたけど、足りなくなって、私の隠し持っていた(!)カレールーを分けました。

それからマヨネーズ。ブランドを指定すると、キューピー。こちらで売られているマヨネーズは、外国製で、妙に甘ったるく口に合いません。

上げていけばきりが無いけど、とにかくいろいろな日本の食材を持ってきてもらうわけです。

で、いざそれをもらおうと、今度は使ってしまうのがもったいなくなって、大事に、大事に取っておくのです。体調が悪くなった時に大切に食べようとか、祝い事の時に食べようとか。

そんなことをしているうちに時間が過ぎ、気がつくや賞味期限をもう3年も過ぎてている!と言うことがしばしばあります。かといって、それを捨ててしまう勇気はなく、すっかり賞味期限の切れてしまったカレールーを、これまた大切に鍋にぼとりと落とすのであります。(それでも十分おいしくいただけますよ)

だから日本に帰ると、日本の食べ物がうれしくて、うれしくて。しかしもともと高級な食べ物や食材を知らない私は、結局毎晩温かいご飯に納豆と言う、これ以上の組み合わせはない日本の食べ物に舌鼓を鳴らすのであります。

よ～し、今度の帰国の時も納豆をたくさん食べるぞ～。そしてラーメンと餃子三昧だ!

だから皆さん、どこかおいしいラーメン屋さん、探しておいてね。

【ご寄付ありがとうございました】

ワンラブ通信53号をお送りしてから今までのご寄付は以下のとおりでした(12月～3月)

12月	円
1月	円
2月	円
3月	円

このおかげで、ルワンダとブルンジ合わせて、次の製品を配布することができました。

義足	13本
装具	8本
杖	83本
車いす	2人

皆さまの温かいご支援に、改めて感謝申し上げます。

【書き損じはがき・テレカありませんか?】

書き損じはがき、テレホンカード、商品券などありませんか?

お正月にたくさん買ってしまった年賀状や書き損じはがきなど、ワンラブ通信を発送する際の切手などに換えて利用したいと思えますので、ぜひお譲りください。

【帰国のお知らせ】

5月から7月まで、ガテラと一緒に日本に帰国します。

5月は良い季節だと思うのだけど、7月はやっぱり暑いのかなあ。最近の日本は、めちゃくちゃ暑いみたいだから…。クーラーの苦手な私は、何年前か、夏に帰国したとき、保冷剤を首や頭に巻き付け、暑さをしのいでいました。しかしそんなものは、あつという間に溶けてしまい、ひたすら「あぢい、あぢい」と念仏のように唱えながら、暑さと戦っておりました。

さて今回もまた各地でお話をさせていただく予定です。学校や教会やら、ボランティアの皆さんがアレンジしてくれるお話の会やら、全国津々浦々(?) 歩き回ろうと思っています。

まだ空いている日もありますので、活動の話やルワンダの話を知りたいという方がいらっしゃいましたら、ぜひお声をかけてください。また学校の先生方で、私たちを呼んでみようと思ったら、ご連絡ください。

都合のつく限り、足を運びたいと思います。よろしく!

それらスケジュールは、ホームページ・ブログ・FBなどに随時載せていこうと思えますので、チェックしてみてください。

皆さまに会えることを楽しみにしております!

ホームページ: <http://www.onelove-project.info/>

ブログ: <http://oneloverwanda.blog105.fc2.com/>

FB: <https://www.facebook.com/mami.rudasingwa>

【お願い】

ワンラブ日本事務所は、皆様のご意見等を積極的に取り入れていきたいと思っています。ルワンダ・ブルンジについて知りたいこと、ワンラブに対するご意見等、どしどしお寄せ下さい。

通信発行のお手伝い、イベントのお手伝いなど、相変わらずボランティアも募集しております。またルワンダ・ブルンジで中長期のお手伝いをお願いできる方、ぜひご連絡ください。

【おことわり】

* 発送作業の都合上、振込用紙を同封させて頂いておりますが、

すべての方に寄付金・会費を催促するものではありません。

* 当団体はご提供いただいた個人情報について、皆さまからご同意を頂いた場合や、正当な理由がある場合を除き、第三者に公開、提供することはございません。

書き損じハガキ、テレホンカードは下記、茅ヶ崎事務所までお送りください。ご寄付は下記の口座まで、みなさまのご支援お待ちしております。

※事務の簡素化と経費節約のため、領収書は省略させて頂いています。

必要の場合は、振込用紙の通信欄に「要領収書」とご記入ください。

〒253-0051 茅ヶ崎市若松町12-28-304 Tel: 0467-86-2072/080-6564-4448

e-mail: info@onelove-project.info(日本事務所) onelove@rwanda1.com(ルワンダ事務所)

郵便振替口座: 00210-5-66497

ムリンディ/ジャパン・ワンラブ・プロジェクト

ワンラブ通信54号 2015年4月

発行: ムリンディ/ジャパン・ワンラブ・プロジェクト

<http://www.onelove-project.info/>

<http://oneloverwanda.blog105.fc2.com/>

<http://www.onelove-project.org/>

